

## 合志市立西合志中央小学校施設検討委員会 第1回会議 会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和8年8月21日（金） 午後3時00分～午後4時10分
- 2 開催場所 西合志中央小学校 会議室
- 3 出席委員 高本 孝一 委員      有内 弘 委員      吉永 健司 委員  
後藤 祐二 委員      辻 藍 委員      林 裕矢 委員  
杉本 光弘 委員      前川 昌寛 委員      財津 公正 委員  
上村 一弘 委員      安武 珠代 委員
- 4 欠席委員 大山 寛 委員
- 5 職務のために出席した者  
中島 栄治 教育長  
牧野 淳一 教育部長  
合志 義浩 学校教育課長  
歌野 雅文 学校教育課 課長補佐  
村上 優太 学校教育課 主幹

### 6 議事内容（要旨）

※ 開会に先立ち、中島教育長より委員へ委嘱状を交付

#### 1 開 会

#### 2 教育長挨拶

##### 【中島教育長】

まず、このたびの熊本地震で被災された皆様方に、改めてお見舞い申し上げたい。

今回の地震で県南地域は大きな被害を受けたこともあり、県南に住んでいる私の教え子からは今後に関する不安の声や、県北地域へ住まいを移したいという相談を受けている。そういったことから、今後も合志市を含めた県北地域の方へ人口がシフトしていくのではないかと感じている。また、この校舎は私が小学5年生の時に建設されたもので、既に50年が経過し、所々老朽化している現状がある。

中央小の今後について、この地域で暮らしている方々や学識経験を持たれている方々から意見を頂き、中央小の今後のあり方について道筋を作っていきたいと考えている。

どうか委員の運営の方にご協力お願いできればと思います。本日より答申を出していただくまでの期間において、ご協力をお願いしたい。

#### 3 委員自己紹介

（各委員および事務局員の自己紹介）

#### 4 会長・副会長選出

本委員会設置要綱第5条に基づき、委員の互選により選出。

会 長 高本 孝一 委員

副会長 有内 弘 委員

#### 5 西合志中央小学校施設の現状と課題について（事務局による説明）

##### 【事務局】

本委員会は、西合志中央小学校における児童数に対する教室や体育館、職員室等の面積不足、管理教室棟の老朽化問題、過去に増築した7棟の整理等の諸課題を整理し、今後の学校施設のあり方をまとめ、合志市教育委員会へ提言を行うことを目的として設置した委員会となる。本委員会での意見は、西合志中央小学校における今後の施設整備方針の土台になる部分だと思われるため、皆様から忌憚のない意見をいただきたい。

まず、西合志中央小学校の現状について、校舎が校区のほぼ中央に位置しており、校区全体が都市計画法による市街化調整区域および農業振興地域で構成されているため、基本的には市街化が抑制されている地域となっている。

児童数については、平成18年の市合併当初は児童数がおおよそ400名程度、学級数は12学級（1学年2学級）程度で推移していたが、平成18年に菊陽町光の森周辺に大型商業施設が開業したことや、平成20年に熊本県が運用を開始した集落内開発制度による小規模開発が活発化したこと等が影響し、平成18年から令和8年までの20年間で児童数が474名増加している。近年においても、令和元年に北熊本スマートインターチェンジが開通し、令和6年4月にTSMC熊本工場が開業した影響もあり、同校区内の宅地開発は継続して行われている状況が見られる。一方で、全国的な物価上昇や建築資材の高騰、地価の高騰等の影響により、住宅購買意欲の鈍化が見られると想定しているが、先ほど教育長から話があったように、熊本地震の影響により県南地域から人の移住も考えられるため、今後の見通しは不透明な状況となっている。

校舎については、児童数の急増に対応するため平成20年から順次7棟の増築を行ってきたが、現時点ではこれ以上の増築を行う用地の確保が難しくなっている。また、最も古い管理教室棟については、建築から56年が経過し、老朽化も進んでいるため、早期の長寿命化改良または建替えを実施する必要がある。特に管理教室棟には職員室を有しており、児童数の増加に伴って教職員の数も増加しているが、作業スペース等の不足から職員が仕事をする環境が十分に確保できていない状況も見られている。その他、体育館についても、児童数に対する保有面積が十分に確保できていないという現状がある。

校区内の児童分布については、資料に記載のとおり若原区、大池区、東大池区においてこれまで集落内開発が活発に行われており、現状では児童全体の約70%がこの3つの行政区から通学しているような現状である。中でも若原区の児童数が500名程度（児童数847名のうち）となっており、大多数の児童が若原区から通学している。

ここまでが現状の説明となる。次に課題について説明させていただく。

1つ目が、児童数に対する教室やその他必要施設の不足である。合併から20年間で児童数が約2.3倍となっており、その都度増築を重ねてきたが、敷地内のスペースが限られているため、動線の複雑さが解消できずに現在に至っている状況である。

本市企画課が算出した人口推計に基づく児童数の推移では、令和11年度に932人でピークを迎え、その後は横ばい又は微減となる傾向が予想されている。今後の整備については、この上限まで受け入れを可能とする校舎の整備を検討していかなければならないと考えている。

2つ目が、施設の老朽化である。先の説明と重複するが、管理教室棟は建築から56年が経過している。合志市公共施設等総合管理計画においては、鉄筋コンクリート造施設の目標耐用年数は原則60年と定めており、それが目前に迫っている状況である。この管理教室棟については、耐震診断や校舎の躯体調査を行った上で、長寿命化改良工事による延命を行うことも可能ではあるが、建築から80年を経過すると建て替えとなる。

なお、管理教室棟に長寿命化改良工事を施したとしても、先の説明の通り現時点で必要な面積が不足しているため、面積不足の現状は解消できないという問題がある。

その他の諸課題について、全児童の約7割を占める若原区、大池区、東大池区から通学している児童が登下校時に校舎東側に面する通称「桜門」から出入りしており、教職員の車両の出入り口と重なるため、登下校時には児童と教職員の車両との接触事故等が危惧されている。また、ユトリック団地区や木原野区などの遠隔地から通学する児童に対してスクールバスを運行しているが、現在は学校用地の中にバス車両が乗り入れ可能なスペースが無いため、野々島防災センター駐車場に停留して児童のバス乗降を行っている。

以上が、西合志中央小学校の現状と課題に関する説明となる。

本日の会議では、まず委員の皆様と課題の共有を行い、次回以降の会議で今後の対策を検討していきたいと考えている。

## 6 質疑応答

### 【委員】

市が計画している学校施設の改修計画の中で、中央小の整備に関する優先順位はどの位置にあるのか。

また、本委員会の目的に「最も効率的かつ効果的な整備手法」という言葉があるが、今後は本委員会の中で一から案を作成していくのか、それとも教育委員会の方から案を示してもらえるのか、その点を伺いたい。

### 【事務局】

市内全体で各学校の長寿命化改良等の整備計画を立てているが、西合志中央小学校に関しては先ほど説明した喫緊の課題があるため、優先順位は非常に高いところに位置づけられていると認識している。

整備手法の案については、次回の会議で事務局が考えている手法の案をお示しさせていただきたいと考えている。委員の皆様には、事前に会議資料を配布する予定である。

【事務局】

以前は築 50 年以上経過した建物は建て替えを検討していたが、現在は「合志市公共施設等総合管理計画」に基づき、躯体の状況を調べたうえで耐震性が高ければ延命化を図るという計画になっている。中央小については優先順位が高いというのは間違いないが、延命を図り財政負担をなるべく平準化するという考え方が計画の中に含まれているため、その点をご承知おきいただきたい。

建て替えに関する国の補助についても、例えば古い校舎であっても建物の状態に大きな問題が無ければ補助対象にならない運用となっており、市単独の予算で建て替えを行うという可能性も考えられるため、そういったところも踏まえて事務局の方でも検討しながら案をお示ししていきたい。

【委員】

事務局の計画では、中央小も長寿命化の方向だと聞いているが、現時点で施設内にこれほどプレハブ校舎が存在し、行政区ごとにここまで偏った児童数になっている学校は中央小しか存在しないため、長寿命化を行う前に再度検討し、今のうちに少し無理しても建て替え等の対策をやるべきではという現状となっていると私は認識している。

これから先の会議で色々な案が出てくと思うが、あまり時間が無いため急ぎ議論を進めていく必要がある

【委員】

この検討委員会の位置づけはどういうものか。説明を聞いていると、市が立案した対策案を承認するための会議なのかというふうにも感じたが、この委員会の中で出た意見をどの程度反映してもらえるのか。

【委員】

この委員会で決定した事項が最も優先されると私は認識している。そのために地域の方々に集まってもらっているわけで、委員から地域の声として挙がってきたものを最大限行政側には尊重してもらおうよう、私は主張していきたい。

【委員】

地域の人に相談してみると、極端な意見が挙がってくることもある。若原区だけを独立させて新たな小学校を作るといった意見や、中央小と第一小を統合するといった意見もある。私の考えとして、熊本市の桜井小学校を見てみると、以前は児童数の急増により色々な対策が必要だったが、今では校区内に住んでいるのがお年寄りばかりとなってしまい、若者はほとんど他所へ出て行ってしまった。そういった状況が今後の中央小校区内でも見られる可能性があるため、もし中央小を建て替える方向で検討していくとしても、そういったことまで踏まえて議論していくべきではないかと思っている。

【委員】

各委員の方で所属団体内の意見をまとめていただき、検討委員会の中で意見を出してほしいと思う。それと、先ほど第一小との統合の話があったが、今や第一小も全校児童が 100 人を超えており、そこと統合するとなれば児童数が過大規模になり、統合は難しいと思う。本検討委員会は、これからの中央小を左右すると言っても過言ではない重要な会議であると私は認識している。

【委員】

一般企業の立場で考えると、老朽化や面積不足により安全確保が出来ない時は、建て替えや改修等を行うことが必須であると感じている。国の指針等で示されている教室数や必要面積の基準を下回っている場合に、早急に改善しなければならないのか、または運用できていれば下回っていても問題ないのか、その部分に関して法的拘束力はないのか。

【事務局】

下回っていても法的拘束力はない。

【委員】

法的な問題もあるかもしれないが、学校訪問等の際に校内を回ってみると迷路のような造りになっておりすごく不便であると感じた。それを踏まえて、建て替えが必要ではないかと個人的には思っている。

【事務局】

今回の会議でいくつか案を提示させていただきたい。本日の会議はあくまで会議の目的や趣旨をお伝えする場として考えており、今回の会議の中で案を提示させていただいた際にメリット・デメリット等を踏まえて協議をいただき、会議の中で方向性等を整理していただければと考えている。

【委員】

会議資料は事前に配布していただけるのか。

【事務局】

配布する。

【委員】

会議は何回開催されるのか。

【事務局】

5回程度を想定している。

【委員】

仮に建て替えの方針となった場合、敷地面積が少ないため、運動場に仮設校舎を建てる必要が出てくるかと思われる。そうすると運動場のスペースが無くなるのが懸念されるが、学校に隣接する用地を買収するという選択肢はないのか。

【事務局】

可能性としてはある。

【委員】

それが可能ならば、建て替えもより現実的になってくるのでは。

【事務局】

詳細については次回の会議でお話しする予定だが、用地買収も可能性としては考えられるが、相手方（地権者）が関係する話になるので、適した土地があったとしてもスムーズに話が進まないことも考えられる。

そういったことを踏まえて、次回の会議で全体的な案を提示して、総合的に検討していただければと考えている。

【委員】

中央小校区における児童増加率の目論見は大丈夫なのか。楓の森小中学校が建設された際の目論見と現在の値とが概ね合致していないため、楓の森が新設から数年で増築することとなったように、中央小も当時の目論見より増加している傾向にあるのか。その時の市の判断が適正だったのか、その辺りを教えていただきたい。

【事務局】

それについては次回詳しく説明する。

楓の森の建設から6年経過しているが、当時と比較するとTSMCの影響が大きいと感じている。TSMC関連で菊陽町付近の地価が高騰し、その影響で合志市内での小規模開発が活発に行われて人口が増えていった現状があり、中々予測することが難しかった。

【委員】

今回の地震の影響により、今後の予測がさらに難しくなることが想定される。

そういったことを踏まえて、次回の会議の中で事務局より提示された案を基に、各委員から意見を出し合っていただき、スムーズな話し合いが出来ればと考えているが、よろしいか。

(※ 一同、了承される。)

【委員】

人口が増える見込みの地区もあれば、集落内開発ができない地区も校区内に3地区存在する。そういった地区に住む人たちの意見も汲んだ上で話を進めていかなければ、人口が増加している地区のことだけを考えて話を進めしまうと反発を招いてしまう恐れがある。そういったことを踏まえて、事務局から案を提示していただきたい。

7 次回委員会日程及び内容について

【事務局】

※次回（第2回）の会議開催日時の調整・確認

日時：令和8年9月28日（月）午後3時～

場所：西合志中央小学校 会議室

8 閉 会